Linux*版インテル® クイック・スタート・キット 製品ガイド

資料番号: C94154-002JA

改訂履歴

版数	改訂履歴	改訂日
-001	『Linux* 版 インテル® クイック・スタート・キット－クイック・リファレンス』の初版作成	2004 年 11 月
-002	ボードサポートを追加	2004 年 12 月

ボードに FCC 適合宣言のマークがついている場合は、次の説明が適用されます。

FCC 適合性宣言

本デバイスは FCC 規則第 15 編に従うものです。動作にあたっては、以下に示す 2 つの条件を満たしていなければなりません。(1) 本デバイスが有害な干渉を引き起こさないこと。(2) 本デバイスは、望ましくない動作を引き起こす可能性のある干渉など、いかなる干渉を受けても対応できること。

本製品の EMC 性能に関するご質問は、弊社までお問い合わせください。

Intel Corporation
5200 N.E. Elam Young Parkway
Hillsboro, OR 97124
1-800-628-8686

この機器は、FCC 規則第 15 編に規定しているクラス B のデジタル装置の規制に関するテストを行い、それに適合することが確認されています。この規制は、住居に設置した場合の、有害な干渉に対する十分な保護を規定したものです。この機器は、電波を発生、使用し、放射する機器であり、指示に従って設置および使用されていない場合、電波通信に有害な障害を引き起こす可能性があります。しかし、特定の設置において障害が起こらないことを保証するものではありません。この機器がラジオまたはテレビ受信の妨害をしている場合は、この機器の電源を切ることで確認できます。以下の方法のうち 1 つまたは複数を使って、障害が起こらなくなるように調整してください。

- 受信アンテナの向きを変えたり、位置を変えたりする。
- この機器と受信機との距離を離す。
- 受信機が接続されているのとは別回路のコンセントにこの機器を接続する。
- 販売店またはラジオ/テレビの専門技術者に相談する。

インテル社の明示的な許可を受けずにこの機器を変更または修正すると、ユーザは装置を操作する権限を失うことがあります。

カナダ通信省の適合性宣言の表示

このデジタル機器は、カナダ通信省 (DOC) の無線干渉規制で定められている、デジタル機器からの無線雑音放射電磁波に関するクラス B の制限値を越えるものではありません。

免責条項

本資料に掲載されている情報は、インテル製品の概要説明を目的としたものです。本資料は、明示されているか否かにかかわらず、また禁反言によるとよらずにかかわらず、いかなる知的財産権のライセンスを許諾するためのものではありません。製品に付属の売買契約書『INTEL'S TERMS AND CONDITIONS OF SALES』に規定されている場合を除き、インテルはいかなる責を負うものではなく、またインテル製品の販売や使用に関する明示または黙示の保証 (特定目的への適合性、商品性に関する保証、第三者の特許権、著作権、その他、知的所有権を侵害していないことへの保証を含む) に関しても一切責任を負わないものとします。インテル製品は、医療、救命、延命措置などの目的への使用を前提としたものではありません。インテル製品は、予告なく仕様が変更される場合があります。

インテル® デスクトップ・ボードは、エラッタと呼ばれる設計上の不具合が含まれている可能性があり、公表されている仕様とは異なる動作をする場合があります。現在確認済みのエラッタについては、インテルまでお問い合わせください。本資料に記載されているすべての製品、日付、数値は、現在の予想に基づくものであり、計画以外の目的ではご利用になれません。これらは予告なしに変更することがあります。他のチャネルでの購入方法は、条件によって異なります。

最新の仕様をご希望の場合および製品をご注文の場合は、お近くのインテルの営業所または販売代理店にお問い合わせください。本資料またはインテルが提供するこれ以外の関連資料で参照されている文書のうち、注文番号が明記されているものについては、インテルのホームページ (http://www.intel.co.jp/) から、あるいはお電話 (1-800-548-4725) でコピーを入手できます。

ハイパー・スレッディング・テクノロジを利用するには、ハイパー・スレッディング・テクノロジに対応したインテル® Pentium® 4 プロセッサを搭載したコンピュータ・システム、および同技術に対応したチップセットと BIOS、OS が必要です。性能は、使用するハードウェアやソフトウェアによって異なります。HT テクノロジに対応したプロセッサの情報等、詳細については http://www.intel.co.jp/jp/info/hyperthreading/ を参照してください。

インテル、Intel ロゴ、Pentium、Celeron は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

* その他の社名、製品名などは、一般に各社の商標または登録商標です。

© 2004 - 2005, Intel Corporation. 無断での引用、転載を禁じます。

目次

はじめに **5**

キットの使い方 **7**

ハードウェア要件 **9**

Linux ディストリビューション **11**

デバイスドライバ **13**

ドライバのインストール 13

インテル® 845 チップセットを搭載したインテル® デスクトップ・ボード 14

インテル® 865 チップセットを搭載したインテル® デスクトップ・ボード 14

インテル® 915 チップセットを搭載したインテル® デスクトップ・ボード 15

Basic Office Automation アプリケーション・スタック **19**

インテル® スペシャル・サポート・キット **23**

iFlash BIOS のアップデート 23

システム BIOS のアップグレード 23

BIOS のデフォルト設定の保存 23

BIOS アップグレード用フロッピー・ディスクの作成 24

アップグレードの実行 24

BIOS アップグレード後の CMOS のリセット 24

システム BIOS のリカバリ 25

詳細情報 25

インテル® Integrator Toolkit 25

詳細情報 26

RPM パッケージ・マネージャ 26

ドライバのインストール 26

ドライバのアップデート 27

ドライバの削除 27

詳細情報 27

Application Version Compliance (AVC) ツール 27

AVC ツールの使い方 27

詳細情報 28

ドキュメント **29**

技術サポート **31**

FAQ **33**

図

図 1. CD の内容 7
図 2. Linux 版 インテル® クイック・スタート・キットの使い方 8
図 3. RPM パッケージの命名規則 26

表

表 1. インテル® 845 チップセットを搭載したインテル® デスクトップ・ボード 9
表 2. インテル® 865 チップセットを搭載したインテル® デスクトップ・ボード 10
表 3. インテル® 915 チップセットを搭載したインテル® デスクトップ・ボード 10
表 4. インテル® デスクトップ・ボードで必要とされる Linux ドライバ 13
表 5. インテル® 865 チップセット搭載のインテル® デスクトップ・ボードで Red Hat Linux Desktop v3 u3 ディストリビューションを使用した場合のドライバのアップグレード手順 14
表 6. インテル® 915 チップセット搭載のインテル® デスクトップ・ボードで Novell Linux Desktop 9 ディストリビューションを使用した場合のドライバのアップグレード手順 16
表 7. インテル® 915 チップセット搭載のインテル® デスクトップ・ボードで Red Flag Desktop 4.1 ディストリビューションを使用した場合のドライバのアップグレード 手順 17
表 8. インテル® 915 チップセット搭載のインテル® デスクトップ・ボードで Red Hat Linux Desktop v3 u3 ディストリビューションを使用した場合のドライバのアップグレード手順 18
表 9. Basic Office Automation アプリケーション 19
表 10. 検証済みのアプリケーション 20

はじめに

Linux* 版 インテル® クイック・スタート・キットを使用すれば、インテル® チャネル・プログラム・メンバは、Linux 搭載デスクトップ PC の設計、構築、販売が可能になります。このキットには、最新版のデバイスドライバ、スペシャル・サポート・キット、ドキュメント、マーケティング資料が含まれています。

このキットでは、次のインテル® デスクトップ・ボードがサポートされています。

- インテル® 845 チップセットを搭載したインテル® デスクトップ・ボード (インテル® Celeron® プロセッサ搭載ボード)
- インテル® 865 チップセットを搭載したインテル® デスクトップ・ボード (インテル® Pentium® プロセッサ搭載ボード)
- インテル® 915 チップセットを搭載したインテル® デスクトップ・ボード (インテル® Pentium® プロセッサ搭載ボード)

注意

マザーボードの詳しいサポートリストについては、9 ページの「ハードウェア要件」を参照してください。

このキットでは、次の Linux ディストリビューションがサポートされています。

- Novell* Linux* Desktop 9
- Red Flag* Desktop 4.1
- Red Hat* Desktop 3 Update 3

インテル® デスクトップ・ボードと Linux ディストリビューションは、オープンソース・ソリューションを導入する上で最適な組み合わせです。インテルではインテル® デスクトップ・ボードと Linux ディストリビューションの上記の組み合わせについて検証を行い、すべて正常に動作することをチャネル・プログラム・メンバに保証しています。

デスクトップ・コンピュータを提供しているシステム・インテグレータの作業効率を上げるために、インテルは RPM パッケージやインテル® インテグレータ・ツールキットのようなプラットフォーム・レベルの新しいインテグレーション機能を提供します。

インテルは、今後もチャネル・プログラムで Linux 搭載 PC の普及を積極的にサポートしていく予定です。詳細およびアップデート情報については、http://www.intel.com/go/linux (英語) を参照してください。

キットの使い方

Linux 版 インテル® クイック・スタート・キットには、サポートされているインテル® デスクトップ・ボードを本書にリストされている Linux OS ディストリビューションと併用する場合に必要となる Linux ドライバ・ソフトウェアが添付されています。本キットのドキュメントを開くには、次の手順に従います。

1. システムの CD-ROM ドライブに CD をセットします。CD が自動的に実行され、ローカルブラウザで言語選択画面が表示されます。CD が自動的に実行されない場合は、CD のルートレベルに移動し、`Quick_Start.html` という名前のファイルをダブルクリックします。
2. 言語選択ページに表示されたマップから目的の地域をクリックし、言語を選択します。例えば、フランス語を選択するには、Europe をマウスでクリックし、French を選択します。
3. 参照したいドキュメントを選択します。

本キットに付属の CD には、生産環境におけるプラットフォームのコンフィグレーション管理を合理化する上で有用なツールも収録されています。本キットに付属の CD は、図 1 のような構成になっています。

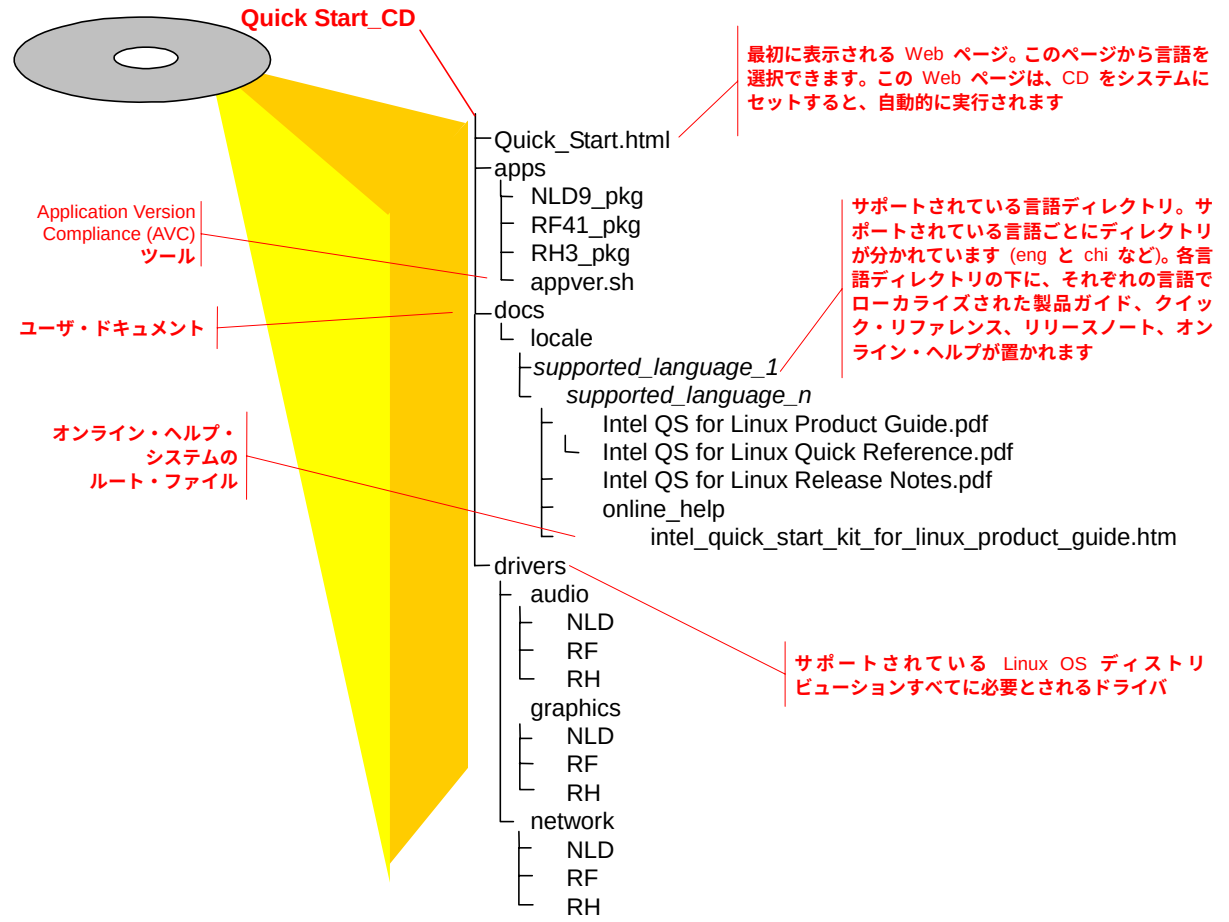

図 1. CD の内容

インテル® デスクトップ・ボードに付属またはインテル® デスクトップ・ボードの Web サイトからダウンロードした詳しいマニュアルに従い、マザーボードにケース、電源、メモリ、CPU、記憶装置、キーボード、マウス、モニタを追加して、基本システムを構築します。なお、このシステムは、サポートされているハードウェア (9 ページの「ハードウェア要件」に記載) をベースにしていなければなりません。さらに、本書で説明する BIOS のアップグレード・プロセスおよびドライバのインストール・プロセスを十分理解しておく必要があります。これらのプロセスを理解した上で、インテル® デスクトップ・ボードの Web サイトをチェックして、ご利用のインテル® デスクトップ・ボードの BIOS のバージョンが最新のものであるかどうか確認してください。BIOS が最新のものでない場合は、Web サイトの指示に従って、BIOS を最新のものにアップデートします。

BIOS が最新のものであることを確認したら、ディストリビュータから入手した手順書に従って、Linux をシステムにインストールします。詳細情報が必要な場合は、http://intel.com/go/linux (英語) にアクセスすれば、サポートされている Linux ディストリビューションへのリンクが利用できます。Linux が正常に起動されたら、ユーザ名を root にしてシステムにログインし、その Linux ディストリビューションとマザーボードの組み合わせに必要とされるドライバをインストールします。CD からドライバをインストールする方法については、13 ページの「ドライバのインストール」を参照してください。最後に、システムを起動し、Application Version Compliance (AVC) ツールを実行して、すべての Basic Office Applications のバージョンが正しいことを確認します。図 2 にこの全プロセスを示します。

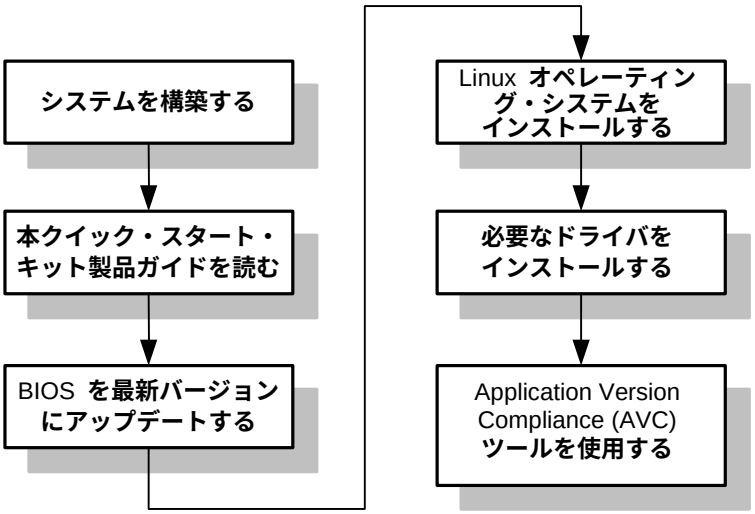

図 2. Linux 版 インテル® クイック・スタート・キットの使い方

ハードウェア要件

インテル® デスクトップ・ボードを使用することで、レガシーシステム、次世代テクノロジ、付加価値コンポーネントなどシステムを構築する上で必要なものを、完全な形で、しかも簡単に構築できます。インテルのチャネル・プログラム・メンバが販売するのは、インテル製のマザーボードで構築されたデスクトップ・システムになります。

Linux 版 インテル® クイック・スタート・キットは、以下に示すインテル® マザーボード・ファミリ向けに設計され、検証されています。

注意

Linux* 版 インテル® クイック・スタート・キットの今後のリリースでは、下記以外のインテル® デスクトップ・ボードについてもサポートする可能性があります。サポートに関する更新情報およびサポートされているマザーボードの一覧については、http://www.intel.com/go/linux (英語) を参照してください。

- **インテル® 845 チップセットを搭載したインテル® デスクトップ・ボード** – インテル® プロセッサ搭載ボードは、多様な主要機能を非常に低価格で提供します。このボードは、プラットフォーム全体のコスト削減を目的として設計されています。表 1 はこのボードリストです。

表 1. インテル® 845 チップセットを搭載したインテル® デスクトップ・ボード

サポートされているマザーボード	詳細情報 (英語)
D845GVFNL	http://developer.intel.com/design/motherbd/fn/index.htm
D845GVSR、D845GVSRL	http://developer.intel.com/design/motherbd/sr/index.htm
D845PEMY、D845PEMYL	http://developer.intel.com/design/motherbd/my/index.htm

これらのボードは、インテル® 845GV チップセット対応のインテル® エクストリーム・グラフィックスなどの機能を搭載し、DDR333/266/200 SDRAM メモリ (最大 2GB)、オンボードの 10/100 LAN ネットワーク・コネクション、USB 2.0 ポート (最大 6 つ)、AC’97 オーディオをサポートしています。このような機能により、コストを重視する顧客が低コストのプラットフォームを実現する上で欠かせないビルディング・ブロックを提供できます。この製品は、すべてのインテル® デスクトップ・ボードに求められる安定性と信頼性をご期待どおりにお届けします。

- **インテル® 865 チップセットを搭載したインテル® デスクトップ・ボード** – これらのインテル® Pentium® 4 プロセッサ搭載ボードは、ハイパー・スレッディング・テクノロジに対応しインテル® 865G チップセット対応のインテル® エクストリーム・グラフィックス 2 を採用しています。

  これらのボードは、最大 800MHz システム・バスおよび 4GB デュアルチャネル DDR400/333/266 SDRAM メモリをサポートし、ジャックを認識する柔軟な 6 チャネル・オーディオ、ネイティブ SATA150 ストレージ・ドライブへの対応、統合インテル® PRO/1000 CT デスクトップ・コネクション (オプション)、最大 6 つの PCI 拡張スロットを提供し、メインストリームの個人ユーザおよび法人向けの柔軟なソリューションになります。

  表 2 はサポートされているボードのリストです。

表 2. インテル® 865 チップセットを搭載したインテル® デスクトップ・ボード

サポートされているマザーボード	詳細情報 (英語)
D865GVHZ、D865GVHZL	http://developer.intel.com/design/motherbd/hz/index.htm
D865GBF、D865GBFL	http://developer.intel.com/design/motherbd/bf/index.htm
D865GLC、D865GLCL	http://developer.intel.com/design/motherbd/lc/index.htm
D865PCDL	http://developer.intel.com/design/motherbd/cd/index.htm
D865PERL、D865PERLX	http://developer.intel.com/design/motherbd/rl/index.htm

- **インテル® 865 チップセットを搭載したインテル® デスクトップ・ボード** – これらのインテル® Pentium® 4 プロセッサ搭載ボードはハイパー・スレッディング・テクノロジに対応し、さまざまな利用目的に最適です。これらのデスクトップ・ボードは、インテル® ハイ・デフィニション・オーディオ、PCI Express* 拡張スロット、オプション機能 (Gigabit LAN など) を装備しています。さらに、これらのデスクトップ・ボードによって、デュアルチャネル DDR2-533 メモリをサポートすることで、柔軟性に優れたプラットフォームを実現します。インテル® 915G チップセットを搭載したインテル® デスクトップ・ボードは、インテル® グラフィックス・メディア・アクセラレータ 900 を搭載しています。

  表 3 はサポートされているボードのリストです。

表 3. インテル® 915 チップセットを搭載したインテル® デスクトップ・ボード

サポートされているマザーボード	詳細情報 (英語)
D915GAGL、D915GAGLK	http://developer.intel.com/design/motherbd/ag/index.htm
D915GAV、D915GAVL	http://developer.intel.com/design/motherbd/av/index.htm
D915GUXL、D915GUXLK[1]	http://developer.intel.com/design/motherbd/ux/index.htm
D915GEV、D915GEVL、D915GEVLK[1]	http://developer.intel.com/design/motherbd/ev/index.htm
D915PCY、D915PCYL	http://developer.intel.com/design/motherbd/cy/index.htm
D915PCML	http://developer.intel.com/design/motherbd/cm/index.htm
D915PGN、D915PGNL	http://developer.intel.com/design/motherbd/gn/index.htm
D915PSYL	http://developer.intel.com/design/motherbd/sy/index.htm

[1] このマザーボードは TPM をサポートしています。ただし、現在のところ、大部分の Linux ディストリビューションは TPM をサポートしていません。

Linux ディストリビューション

Linux 版 インテル® クイック・スタート・キットは、次のオペレーティング・システムをサポートすることが検証によって確認されています。

- **Novell Linux Desktop 9** – Novell 社が販売。1992 年に設立された SUSE LINUX は、Linux ソフトウェアおよびサービスにおける世界の主要プロバイダの 1 つです。Novell 社は、最大規模の Linux 専用研究開発チームを擁し、エンタープライズ対応のソフトウェアやサービスの提供を通じて、革新や迅速な市場投入スピード、オープンソース・コミュニティの独立性の確保に貢献しています。Novell Linux Desktop 9 は、企業が自信を持って Linux およびオープンソースを利用できるようにするための卓越したエンドユーザのプロダクティビティ環境を提供します。Novell Linux Desktop は、汎用的なデスクトップ・プラットフォームとして用いることも、情報キオスクのような固定された機能または特定の目的に合わせて仕様を決めることもできます。NLD の詳細については、http://www.novell.com/products/desktop/intel.html (英語) を参照してください。

- **Red Flag Desktop 4.1** – Red Flag Software 社が販売。同社は、Linux ベースのオペレーティング・システムおよびアプリケーションの開発および販売促進に注力しています。製品系列には、デスクトップ、サーバ、高性能のコンピューティング OS、セキュリティ・オペレーティング・システム、エンベデッド・システムなどがあります。同社は、最先端の Red Flag Linux ディストリビューションと最高級の技術サポートサービスを提供することにより、最高レベルのパフォーマンスでコンピュータを稼動させ、優れた信頼性と高い効率を実現できるようにしています。Red Flag Software 社の詳細については、http://www.redflag-linux.com/intel/co-branded/ (英語) を参照してください。

- **Red Hat Desktop 3 Update 3 (中国語のみ)** – インテル® デスクトップ・ボードと Red Hat Desktop との組み合わせによるクライアント・ソリューションは安全で管理性に優れており、政府、学術関係、企業などの環境における小規模導入から大規模導入に至るまで幅広い範囲に対応しています。Red Hat Desktop では、デスクトップ・ユーザが最も必要とするアプリケーションを取り込むことにより、ほとんどのニーズに対応する安全性が高くカスタマイズ可能な環境を実現しています。顧客は各種ツールや通信ソリューション (電子メール、インスタント・メッセージング) を搭載した開発用プラットホームを求めている場合もあれば、オフィス生産性ソリューションを必要としているビジネスユーザ向けのデスクトップ・プラットフォームを求めている場合もあります。Red Hat 社はサーバからデスクトップに至るまで、ユーザの顧客に対して、認定されている ISV アプリケーションのサポートを提供するとともに、柔軟でありながら、オープンソース・ソリューションの主要プロバイダから安定した動作とサポート体制が保証された Linux プラットフォーム機能を提供します。Red Hat Software 社の詳細については、http://www.redhat.com/promo/intel (英語) を参照してください。

注意

今後のインテルのリリースでは、マーケットやアプリケーション固有の要件に基づき、上記以外の Linux ディストリビューションについても検証サポートを取り入れる可能性があります。このサポートに関する新しい更新情報については、http://www.intel.com/go/linux (英語) を参照してください。

デバイスドライバ

ドライバの検証は、インテル® デスクトップ・ボードのテストおよび製造プロセスにおいて重要な部分を占めています。特に、デバイスを正常にインストールできても、ドライバが機能しなければ、デバイスにアクセスできません。インテルではドライバを厳しい基準で検証しているため、ドライバおよびそのドライバでサポートされるコンポーネントでインテル® デスクトップ・ボードが正しく動作することが保証されています。

システムを構築する上で必要となる Linux ドライバは、どの OS ディストリビューションを選択したかによって異なります。表 4 に、本リリースに組み込まれているドライバをまとめます。

表 4. インテル® デスクトップ・ボードで必要とされる Linux ドライバ

マザーボード	Novell Linux Desktop 9	Red Hat Linux Desktop v3 u3	Red Flag Linux Desktop 4.1
インテル® 845 チップセットを搭載したインテル® デスクトップ・ボード	ドライバのアップデートは不要	ドライバのアップデートは不要	ドライバのアップデートは不要
インテル® 865 チップセットを搭載したインテル® デスクトップ・ボード	ドライバのアップデートは不要	AC '97 オーディオ・ドライバ	ドライバのアップデートは不要
インテル® 915 チップセットを搭載したインテル® デスクトップ・ボード	• インテル® ハイ･デフィニッション・オーディオ・ドライバ • Marvell* Yukon ギガビット・ドライバ • インテル® グラフィックス・メディア・アクセラレータ 900	• インテル® ハイ･デフィニッション・オーディオ・ドライバ • GbE LAN ドライバ • インテル® グラフィックス・メディア・アクセラレータ 900	• インテル® ハイ･デフィニッション・オーディオ・ドライバ • インテル® グラフィックス・メディア・アクセラレータ 900

ドライバのインストール

ドライバをインストールする前に、システムでどのカーネルが動作しているのか調べる必要があります。カーネルが動作しているシステムで複数のプロセッサがサポートされている場合、単一のプロセッサを使用するシステムとは異なるドライバセットが必要になる可能性があります (例：ハイパー・スレッディング・テクノロジ対応インテル® Pentium® 4 プロセッサ)。

システムの構成を確認するには、root 権限でログインし、次のコマンドを実行します。

```
# uname -r
```

このコマンドによって、システムで smp (マルチ・プロセッサ) と up (シングル・プロセッサ) のどちらの Linux カーネルが動作しているのか表示されます。どちらのカーネルが動作しているか確認したら、ドライバをインストールできます。以降のセクションでは、サポートされているそれぞれのマザーボードにドライバをインストールする場合に実行しなければならないコマンドを示します。

インテル® 845 チップセットを搭載したインテル® デスクトップ・ボード

11 ページの「Linux ディストリビューション」にリストされている Linux ディストリビューションでは、このボードで構築されたシステムのチップセットおよびマザーボードに組み込まれているデバイス用のすべてのドライバ (オーディオ、グラフィックス、LAN など) が提供されています。この製品については、チップセットまたはボードに組み込まれているデバイス用にドライバを追加インストールする必要はありません。ただし、ボード上の PCI スロットに接続される追加周辺機器アダプタについては、ベンダ固有のドライバが必要になる可能性があります。

インテル® 865 チップセットを搭載したインテル® デスクトップ・ボード

Red Hat Linux Desktop バージョン 3 アップデート 3 ディストリビューションでは、このボードで構築されたシステムのマザーボードおよびチップセットに組み込まれているデバイス用の LAN ドライバとグラフィックス・ドライバが提供されています。AC ’97 オーディオ・ドライバは提供されていません。

注意

ボード上の PCI スロットに接続される追加周辺機器アダプタについては、ベンダ固有のドライバが必要になる可能性があります。

AC ’97 オーディオ・ドライバをインストールするには、次のステップに従います。

表 5 に、Red Hat Linux Desktop v3 u3 ディストリビューションの場合にドライバをアップデートするための手順を示します。

表 5. インテル® 865 チップセット搭載のインテル® デスクトップ・ボードで Red Hat Linux Desktop v3 u3 ディストリビューションを使用した場合のドライバのアップグレード手順

ドライバ	手順
AC ‘97 オーディオ・ドライバ	1. Linux* 版 インテル® クイック・スタート・キットの製品 CD をシステムの CD-ROM ドライブにロードします。 2. root 権限でシステムにログオンします。 3. Linux シェル・プロンプトで、次のディレクトリに移動します。 `<cdrom_drive>/drivers/audio/RH` 4. サウンドのインストール/コンフィグレーション・スクリプト `./audio_install` を実行します。 5. CD-ROM ドライブから CD を取り出します。 6. システムを再起動します。
グラフィックス・ドライバ	アップデートは不要。
LAN ドライバ	アップデートは不要。

インテル® 915 チップセットを搭載したインテル® デスクトップ・ボード

11 ページの「Linux ディストリビューション」にリストアップされている Linux ディストリビューションでは、このボードで構築されたシステムのマザーボードとチップセットに組み込まれているデバイス用の LAN、グラフィックス、オーディオのドライバは提供されていません。この 3 つのドライバを、オーディオ、グラフィックス、ネットワークの順にインストールしなければなりません。

注意

ボード上の PCI スロットまたは PCI Express* スロットに接続される追加周辺機器アダプタについては、ベンダ固有のドライバが必要になる可能性があります。

ドライバをインストールするには、次のステップに従います。

表 6 に、Novell Linux Desktop 9 ディストリビューションの場合にドライバをアップデートするための手順を示します。

表 6. インテル® 915 チップセット搭載のインテル® デスクトップ・ボードで Novell Linux Desktop 9 ディストリビューションを使用した場合のドライバのアップグレード手順

ドライバ	手順
インテル® High Definition Audio Driver	1. Linux 版 インテル® クイック・スタート・キットの製品 CD をシステムの CD-ROM ドライブにロードします。 2. root 権限でシステムにログインします。 3. Linux シェル・プロンプトで、次のディレクトリに移動します。ここで、*cdrom_drive* は、システム内のドライブのタイプに応じて、/media/cdrom、/media/cdrecorder、/media/dvd、/media/dvdrecorder のいずれかになります。 `<cdrom_drive>/drivers/audio/NLD` 4. サウンドのインストール/コンフィグレーション・スクリプト `./audio_install` を実行します。 5. システムを再起動します。
インテル® グラフィック・メディア・アクセラレータ 900 (インテル® 915G チップセット搭載のインテル® デスクトップ・ボードのみ)	1. root 権限でシステムにログインします。 2. Linux 版 インテル® クイック・スタート・キットの製品 CD (`<cdrom_drive>/drivers/graphics/NLD`) から `i915Graphics-1.0-0.i386.rpm` をシステムのルート・パーティションにコピーします。 3. シェル・プロンプトを表示し、“init 3” と入力して、X11 が動作していないことを確認します。 4. Ctrl+Alt+F1 キーを押した後、再度 root 権限でシステムにログインすると、コンソール 1 に切り替えます。 5. ルート・ディレクトリ (“/”) になっていることを確認します。 6. 次のコマンドを入力して、RPM をインストールします。 `rpm –ihv i915Graphics-1.0-0.i386.rpm` 7. システムを再起動します。 8. root 権限でシステムにログインします。 9. ディストリビューション固有の表示設定ユーティリティを実行します。NLD 9 の場合は、“yast2” から実行します。 10. 915 G ドライバを選択して、Accelerated Graphics をオンにします。 11. システムを再起動します。

Marvell* Yukon Gigabit Driver	1. Linux 版 インテル® クイック・スタート・キットの製品 CD をシステムの CD-ROM ドライブにロードします。
	2. root 権限でシステムにログオンします。
	3. Linux シェル・プロンプトで、次のディレクトリに移動します。
	`<cdrom_drive>/drivers/network/NLD`
	4. ドライバをインストールします。SMP システムの場合は最初のコマンドを、UP システムの場合は 2 番目のコマンドを使用します。
	`rpm –ivh sk98lin-7_08-nld9-2.6.5-7.111-smp.1586.rpm`
	`rpm –ivh sk98lin-7_08-nld9-2.6.5-7.111.1586.rpm`
	5. システムを再起動します。

表 7 に、Red Flag Desktop 4.1 ディストリビューションの場合にドライバをアップデートするための手順を示します。

表 7. インテル® 915 チップセット搭載のインテル® デスクトップ・ボードで Red Flag Desktop 4.1 ディストリビューションを使用した場合のドライバのアップグレード手順

ドライバ	手順
インテル® High Definition Audio Driver	1. Linux 版 インテル® クイック・スタート・キットの製品 CD をシステムの CD-ROM ドライブにロードします。 2. root 権限でシステムにログインします。 3. Linux シェル・プロンプトで、次のディレクトリに移動します。 `<cdrom_drive>/drivers/audio/RF` 4. サウンドのインストール/コンフィグレーション・スクリプト `./audio_install` を実行します。 5. システムを再起動します。

インテル® グラフィック・メディア・アクセラレータ 900
 	
(インテル® 915G チップセット搭載のインテル® デスクトップ・ボードのみ)
	1. root 権限でシステムにログインします。
	2. シェル・プロンプトを表示し、“init 3” と入力して、X11 が動作していないことを確認します。init 3 を実行した後、システムに再度ログインしなければならない場合があります。
	3. Linux シェル・プロンプトで、次のディレクトリに移動します。
	`<cdrom_drive>/drivers/graphics/RF`
	4. 次のコマンドを入力して、RPM をインストールします。
	`rpm –ihv i915Graphics-1.0-0.i386.rpm`
	5. ランレベル 5 でシステムを再起動します。
	6. root 権限でシステムにログインします。
	7. Xconfigurator を実行します。
	8. i915 G ドライバを選択して、Accelerated Graphics をオンにします。**注意:** USB マウスをお使いの場合、Xconfigurator が「X の起動テスト」ステップをパスできないことがあります。このような場合は、このステップをスキップし、後で mouseconfig を実行してマウスを設定してください。
	9. ディストリビューション固有の表示設定ユーティリティを実行します。
	10. i915 G ドライバを選択して、Accelerated Graphics をオンにします。
	11. システムを再起動します。

LAN ドライバ	アップデートは不要。

表 8 に、Red Hat Linux Desktop v3 u3 ディストリビューションの場合にドライバをアップデートするための手順を示します。

表 8. インテル® 915 チップセット搭載のインテル® デスクトップ・ボードで Red Hat Linux Desktop v3 u3 ディストリビューションを使用した場合のドライバのアップグレード手順

ドライバ	手順
インテル® High Definition Audio	1. Linux 版 インテル® クイック・スタート・キットの製品 CD をシステムの CD-ROM ドライブにロードします。 2. root 権限でシステムにログオンします。 3. Linux シェル・プロンプトで、次のディレクトリに移動します。 `<cdrom_drive>/drivers/audio/RH` 4. サウンドのインストール/コンフィグレーション・スクリプト `./audio_install` を実行します。 5. システムを再起動します。
インテル® グラフィック・メディア・アクセラレータ (インテル® 915G チップセット搭載のインテル® デスクトップ・ボードのみ)	1. root 権限でログインします。 2. Linux 版 インテル® クイック・スタート・キットの製品 CD をシステムの CD-ROM ドライブにセットします。`/mnt/cdrom` または `/mnt/cdrom1` (CD を 2 つ目の CD-ROM ドライブにセットしている場合) に自動的に CD がマウントされるはずです。 3. シェル・プロンプトを表示し、“init 3” と入力して、X11 が動作していないことを確認します。 4. `<cdrom_drive>/drivers/graphics/RH` ディレクトリになっていることを確認します。 5. 次のコマンドを入力して、RPM をインストールします。 `rpm –ihv i915Graphics-1.0-0.i386.rpm` 6. システムを再起動します。 7. root 権限でシステムにログインします。 8. ディストリビューション固有の表示設定ユーティリティを実行します。Red Hat の場合は、`redhat-config-xfree86` コマンドから実行します。 9. i915 G ドライバを選択して、Accelerated Graphics をオンにします。 10. システムを再起動します。

Marvell* Yukon Gigabit Driver	1. Linux 版 インテル® クイック・スタート・キットの製品 CD をシステムの CD-ROM ドライブにロードします。
	2. root 権限でシステムにログオンします。
	3. Linux シェル・プロンプトで、次のディレクトリに移動します。
	`<cdrom_drive>/drivers/network/RH`
	4. ドライバをインストールします。SMP システムの場合は最初のコマンドを、UP システムの場合は 2 番目のコマンドを使用します。
	`rpm –ihv sk98lin-7_08-rh3-2.4.21-20.ELsmp.i386.rpm`
	`rpm –ihv sk98lin-7_08-rh3-2.4.21-20.EL.i386.rpm`
	5. システムを再起動します。
	6. システムを再起動すると、LAN アダプタ・ハードウェアが検出されます。詳しいコンフィグレーションを尋ねるプロンプトが表示されます。ほとんどのコンフィグレーションでは、DHCP オプションが使用されます。LAN コンフィグレーションの詳細については、Linux OS のドキュメントを参照してください。

Basic Office Automation アプリケーション・スタック

Linux 版 インテル® クイック・スタート・キットでは、サポートされている Linux ディストリビューションに対して最新のデバイスドライバを実行し、インテル® デスクトップ・ボードを搭載したデスクトップ・システムですでに検証済みの Basic Office Automation アプリケーション・スタックが規定されています。Basic Office Automation アプリケーション・スタックは、オフィス環境でのビジネスに必要なアプリケーションから構成されます。表 9 に、アプリケーション・スタックを構成するアプリケーションを示します。

表 9. Basic Office Automation アプリケーション

アプリケーション・タイプ	説明
オフィス・アプリケーション	ワープロ、表計算、プレゼンテーションの作成、作図などの処理を行うためにオフィス環境で使用されるアプリケーション・セット。
Web ブラウザ	インターネットにアクセスおよびブラウズできます。
電子メールツール	電子メール・メッセージを送受信できます。
デスクトップ	Desktop* スイートおよび開発用プラットフォーム。
インスタント・メッセージング (IM)	インターネットを介して他のインターネット・ユーザとリアル・タイムでやりとりする通信サービスタイプ。
PDF リーダ	Portable Document Format (PDF) ファイルのビューア (これらのファイルは、Adobe 社の PDF ソフトウェアの名前から「Acrobat」ファイルとも呼ばれます)。
フラッシュ・プレーヤ	各種の Web ポータル上に埋め込まれているオーディオおよびビデオを再生するためのプラグイン。最も広く利用されているアプリケーションは、Macromedia フラッシュ・プレーヤです。
ストリーミング・オーディオ・ビデオ・プレーヤ	マルチフォーマットのオーディオ/ビデオプレーヤ/オーガナイザ。ファイルのタグ付け、リッピング、バーニング機能を持ち、RealRhapsody ミュージック・ストアに対応。無料バージョンと有料バージョンがあります。
アンチウイルス・アプリケーション	ウイルスやその他の悪意のあるプログラムがデスクトップ・システムを攻撃するのを防止します。

インテルでは、サポートされている Linux ディストリビューションごとに上記のアプリケーション・タイプに対応するアプリケーションを識別し、インテル® デスクトップ・ボードを搭載したデスクトップ・システムでこれらのアプリケーションが動作するか基本的な機能検証を実施しました。また、これらのアプリケーションが正常に動作するかどうか判断できるように、インテルではこのリリースで Application Version Compliance (AVC) ツールを提供しています。このツールはどのような Linux デスクトップ・システムでも実行でき、このツールを実行すれば、Basic Office Automation アプリケーションのバージョンを検証できます。不適合なバージョンのアプリケーションが検出された場合には、その旨を示すレポートが生成されます。また、不適合が検出された場合には、アプリケーションの正しいバージョンが示されるとともに、そのアプリケーションをインターネットのどこからダウンロードできるかも示されます。

注意

インテルでは表 9 に示すアプリケーションの限られた機能の検証について実施しました。この機能検証では、サポートされているディストリビューションに必要とされるデバイスドライバの更新を行い、アプリケーションのインストールおよび実行が可能であるかの確認を行いました。インテルでは、これらのアプリケーションでサポートされているすべての機能についての完全な機能検証は実施せず、技術サポートについて一切の責任を負いません。これらのアプリケーションについてご質問または技術サポートが必要な場合は、OS およびアプリケーションの各ベンダに直接お問い合わせください。

注意

Linux 対応のその他のオフィス生産性アプリケーションについて、インテルがその使用を制限または排除するものではありません。上記の Basic Office Automation アプリケーションを識別したのは、インテルがこれらのアプリケーションについて限られた機能について検証を正しく実施し、インテル® ベースのデスクトップ・システムでこれらのアプリケーションが十分に動作することを明らかにするためです。

表 10 は、サポートされている Linux ディストリビューションについて、Linux 版 インテル® クイック・スタート・キット製品リリースで検証およびサポートされている個々のアプリケーションとそのバージョンを示したものです。

表 10. 検証済みのアプリケーション

アプリケーション	Red Hat	Novell	Red Flag
オフィス・アプリケーション	OpenOffice* v1.1.0	Open Office v1.1.3	Open Office v1.1.1
電子メールツール	Evolution* v1.4	Evolution 1.4	Kontact* 1.0
Web ブラウザ	Mozilla* v1.4.3	Mozilla* Firefox* v0.9.1	Mozilla* v1.7
デスクトップ	Gnome* 2.2	Gnome* v2.6	KDE* 3.2.1
インスタント・メッセージング	GAIM*	GAIM	Kopete* v0.8.1
PDF リーダ	xPDF* および Adobe* Reader* 6.0	Adobe Reader 5.0	xPDF 3.00 (中国語をサポートするために Red Flag によって機能拡張)
フラッシュ・プレーヤ	Macromedia* Flash v7.0	Macromedia Flash v7.0	Macromedia Flash v7.0
ストリーミング・オーディオ/ビデオ	Real Player* v10	Real Player v10	Real Player v10
アンチウイルス・アプリケーション	Grisoft* AVG	Grisoft AVG	Grisoft AVG

注意

今後のリリースで、インテルはオフィス・オートメーション・アプリケーション・スイートにオフィス・プロダクティビティ・アプリケーションを追加する可能性があります。また、これ以外のバーティカル・セグメントについても、Linux をベースにしたソリューション・スタックをさらに定義および検証するかもしれません。これに関連する新しい更新情報については、http://www.intel.com/go/linux (英語) を参照してください。

OpenOffice (オフィス・プロダクティビティ・アプリケーション)、Mozilla (Web ブラウザ)、Evolution (電子メールツール)、Gnome および KDE (デスクトップ)、GAIM および Kopete (インスタント・メッセージング)、xPDF は、OS ディストリビューションに通常バンドルされているオープンソース・アプリケーションです。

Adobe Acrobat Reader、Macromedia Flash Player、Real Player、AVG アンチウイルス・ソフトウェアはサードパーティ製のソフトウェア・アプリケーションであり、オープンソースではありません。これらのアプリケーションはすべて、通常、然るべきライセンス契約により無料でダウンロードできます。これらのアプリケーションの詳細情報およびダウンロード情報については、以下を参照してください。

- Adobe Acrobat Reader – http://www.adobe.com/products/acrobat/readstep2.html (英語)
- Macromedia Flash Player – http://www.macromedia.com/shockwave/download/download.cgi?P1_Prod_Version=ShockwaveFlash (英語)
- Real Player – http://www.real.com/linux/ (英語)
- Grisoft の AVG アンチウイルス・ソフトウェア – http://www.intel.com/design/motherbd/software.htm (英語)

インテル® スペシャル・サポート・キット

Linux 版 インテル® クイック・スタート・キットには、インテル® デスクトップ・ボードのスペシャル・サポート・キットが付属しています。このセクションでは、このキットに含まれるツールの概要を説明するとともに、これらのツールをダウンロードしたり、ツールの詳細情報を知りたいという場合に利用できるリンクについても紹介します。

iFlash BIOS のアップデート

インテルで製造されたデスクトップ・ボードでは、フラッシュ・メモリ・コンポーネントにシステム BIOS が内蔵されています。このため、EPROM コンポーネントを交換しなくても、フラッシュ BIOS を簡単にアップグレードできます。アップグレード・ユーティリティはフロッピー・ディスクに収められており、システム BIOS の保存、検証、アップデートを行えます。

システム BIOS のアップグレード

注意

万が一 BIOS のアップグレードが中断された場合には、BIOS が使用できない状況に陥る恐れがあります。この状況から復旧するには、25 ページの「システム BIOS のリカバリ」の手順を参照してください。

BIOS をアップグレードするには、次の処理を行います。

1. BIOS のデフォルト設定を保存します。
2. BIOS アップグレード用フロッピー・ディスクを作成します。
3. アップグレードを実行します。
4. CMOS をリセットします。

BIOS のデフォルト設定の保存

警告

お使いの BIOS のデフォルト値をカスタム・デフォルトとして保存しなかった場合、最新の BIOS にアップグレードした後、必要な設定を再度手作業で入力し直す必要があります。

1. 起動処理中に、**F2** キーを押して、BIOS セットアップ・ユーティリティを呼び出します。
2. 現在の CMOS 設定値をすべて書き留めます。
3. [Exit] メニューを開き、[**Save Custom Defaults**] オプションを選択します。
4. [**Yes**] をクリックして、現在の BIOS 設定をカスタム・デフォルト設定として保存します。BIOS のアップグレード時に CMOS メモリが消去された場合、デフォルトではこのカスタム・デフォルト設定値が BIOS の設定値となります。

BIOS アップグレード用フロッピー・ディスクの作成

1. BIOS のアップデート・ファイルは http://downloadfinder.intel.com/scripts-df/support_intel.asp?iid=Corporate+Header_Supp_downloads& からダウンロードが可能です。左側のメニューから [Desktop Boards] を選択し、適切なマザーボードを選択します。
2. Windows* エクスプローラを開き、ダウンロードされたファイルの位置を確認します。
3. 実行ファイルをダブルクリックします。DOS ウィンドウが表示されます。
4. **Y** キーを押して、ファイルをカレント・ディレクトリに解凍します。**N** キーを押すと、プロセスが終了します。
5. カレント・ディレクトリにある License.txt ファイルをダブルクリックし、エンドユーザ・ライセンス契約条項に目を通します。
6. フロッピー・ディスク・ドライブにフォーマット済みのフロッピー・ディスクをセットします。

⚠ 警告

フロッピー・ディスク上の既存のデータはすべて消去されます。

1. Run.bat ファイルをダブルクリックして、BIOS アップデート用フロッピー・ディスクの作成を開始します。
2. DOS ウィンドウに表示される手順に従って操作します。

アップグレードの実行

1. 上記のセクションで作成した起動用フロッピー・ディスク (BIOS が保存されているディスク) を、アップグレードしたいシステムのドライブ A にセットします。
2. システムを起動します。
3. 画面上のプロンプトに従います。

BIOS アップグレード後の CMOS のリセット

1. システムを起動し、表示される BIOS の識別子を調べ、新しい BIOS バージョンが正しくインストールされていることを確認します。
2. 起動処理中に **F2** キーを押して、BIOS セットアップ・ユーティリティを呼び出します。
3. **F9** キーを押して、CMOS の設定を工場出荷時のデフォルト値に戻します。
4. **ENTER** キーを押して、セットアップ・デフォルト値をロードします。
5. BIOS をアップグレードする前に CMOS の設定をカスタム・デフォルトとして保存している場合は、[Exit] メニューを開き、[**Load Custom Defaults**] オプションを選択して、デフォルト値をあらかじめ保存しておいたカスタムな設定値に戻します。
6. BIOS をアップグレードする前に CMOS の設定をカスタム・デフォルトとして保存していない場合は、各オプション画面を開き、BIOS をアップグレードする前に書き留めておいた値に CMOS の設定を変更します。
7. **F10** キーを押して、設定内容を保存します。
8. **ENTER** キーを押して、変更内容を有効にします。

システム BIOS のリカバリ

BIOS のアップグレード中に電源断や同様の障害が発生すると、BIOS が使用できない状態になる場合があります。BIOS の復旧を行うには、次の手順に従います。

1. 電源およびスピーカがマザーボードに接続されていることを確認します。
2. フロッピー・ドライブがドライブ A として接続されていることを確認します。
3. BIOS コンフィギュレーション・ジャンパの位置を Recovery モード位置に変更します
4. 起動用アップグレード・ディスクをドライブ A にセットします。
5. システムを再起動します。
6. 消去不能な boot block 領域には少量のコードしか入らないので、画面上に手順を表示することはできません。したがって、スピーカの音を聞き、フロッピー・ディスク・ドライブの LED を確認することで進捗状況をチェックしなければなりません。ビープ音が鳴り、LED が点灯している間は、FLASH デバイスにリカバリ用コードがコピーされています。リカバリが終了すると、LED が消えます。
7. システムの電源をオフにします。
8. BIOS コンフィギュレーション・ジャンパをデフォルト位置に戻します。
9. アップグレード用フロッピーをドライブ A から取り出します。
10. システムの電源をオンにします。

➡ 注意

起動処理中にエラーメッセージ “CMOS/GPNV Checksum Bad. Press F1 to Run SETUP“ が表示された場合は、**F1** キーを押して、BIOS セットアップ・ユーティリティを呼び出します。その後、**F9** キーを押して、セットアップのデフォルト値をロードします。最後に **F10** キーを押して、設定を保存し、終了します。

インテル® デスクトップ・ボードの詳細については、http://developer.intel.com/design/motherbd/ (英語) を参照してください。

詳細情報

iFlash BIOS Update ユーティリティについては、
http://developer.intel.com/design/motherbd/standardbios.htm (英語) を参照してください。

インテル® Integrator Toolkit

PC の OEM および専門のシステム・インテグレータを対象にしたこの包括的なソリューションを採用すると、円滑かつ効率的なビジネスが可能になります。このキットにより、製造ラインでの作業をこれまでよりも簡単に合理化できます。その結果、作業時間および人件費が節約され、自動化によって品質が向上するとともに人的ミスが減少、機密情報を取り扱う BIOS の設定を不正に改ざんできないようにすることでサポートコストが削減されます。さらに、フレックス・モジュール・テクノロジを使用してそれぞれの自社ブランドの販売促進を図れ、安定した動作と高いパフォーマンスを実現するためにシステム設定を最適化したり、カスタマイズされたシステム構成を複数のシステムにコピーし検証を行えます。

詳細情報

インテル® Integrator Toolkit の全般的な情報については、http://www.intel.com/design/motherbd/itk.htm (英語) を参照してください。このツールキットの使い方については、http://www.intel.com/design/motherbd/software/itk/accesslevel02/ (英語) に記載されている詳しいトレーニング・コースを参照してください。

RPM パッケージ・マネージャ

RPM パッケージ・マネージャ (RPM) は、コンピュータ・ソフトウェアのインストール、アンインストール、検証、照会、更新などを行うことができるコマンドライン方式の強力なパッケージ管理システムです。Linux 版 インテル® クイック・スタート・キットのドライバは、簡単にインストールできるように、RPM フォーマットでパッケージ化されています。

注意

RPM パッケージを使用してデバイスドライバをインストールするには、root 権限と同等のアクセス権が必要です。

デバイスドライバの RPM には、あらかじめコンパイルされたバイナリドライバと、ドライバ・マニュアル・ページなどのサポートされているドキュメントが含まれています。RPM に含まれているドライバは個々の Linux OS ディストリビューションに合わせてコンパイルされているので、正しい Linux OS ディストリビューションで正しい RPM パッケージを使用しているか確認しておくことが重要になります。RPM パッケージには、そのパッケージが対象とする Linux OS ディストリビューションを下図のようにコード化した名前が付けられています。

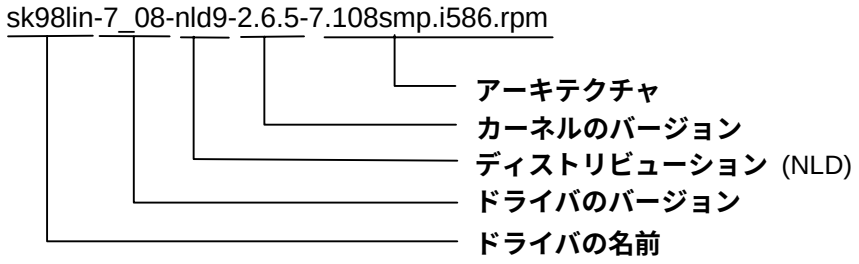

図 3. RPM パッケージの命名規則

ドライバのインストール

RPM パッケージ・マネージャを使用してドライバをインストールするには、root 権限でログインし、次のコマンドを実行します。

```
# rpm -ihv <file>
```

ここで、<file> はデバイスドライバの RPM パッケージ・ファイルの 1 つです。例えば、次のコマンドでは、sk98lin ドライバをインストールします。

```
# rpm -ihv sk98lin-7_08-nld9-2.6.5.7.108smp.i586.rpm
Preparing...        ################################### [100%]
1:sk98lin           ################################### [100%]
```

ドライバのアップデート

RPM マネージャを使用した RPM パッケージのアップデートは、パッケージのインストール手順とほとんど同じです。違いは、–i オプションではなく、–U オプションを使用することだけです。下記は、sk98lin ドライバのアップデート例です。

```
# rpm -Uhv sk98lin-7_08-nld9-2.6.5.7.108smp.i586.rpm
Preparing...        ################################### [100%]
1:sk98lin           ################################### [100%]
```

ドライバの削除

デバイスドライバを削除 (アンインストール) するには、–e オプションを使用し、削除するドライバを指定します。下記は、sk98lin ドライバの削除例です。

```
# rpm -e sk98lin
```

詳細情報

RPM パッケージの使い方については、26 ページを参照してください。RPM パッケージ・マネージャの詳細については、http://www.rpm.org/ (英語) を参照してください。

Application Version Compliance (AVC) ツール

インテルでは、本リリースのインテル® クイック・スタート・キットで、Basic Office Automation アプリケーション・スタックを検証しています。AVC ツールを使用すると、デスクトップ・システムにインストールされているアプリケーションのバージョンが、各デスクトップ・ボードについて各種ディストリビューションで動作することが確認されているバージョンと同じであるかどうかを確認できます。

また、このツールを利用して、システム・インテグレータおよび OEM に対して技術サポートを提供することもできます。例えば、Basic Office Automation アプリケーション・スイート内のアプリケーションについて問題が報告された場合、このツールを使用すれば、サポートされていないバージョンのアプリケーションがシステム上に存在するために発生した問題かどうかを確認でき、問題の原因究明に役立ちます。

AVC ツールの使い方

このツールを使用するには、コマンドラインから appver.sh スクリプトを実行します。このスクリプトを実行すると、アプリケーションのバージョンが基準となるバージョンと照合され、不適合が検出された場合にその旨が報告されます。すべてのアプリケーションのバージョンとそれに従属するパッケージがすべて正しいバージョンであることが判明した場合は、アプリケーションのバージョンがすべて正しく、何の問題も検出されたなかった旨のスクリプトが表示されます。

次のコマンドでツールを起動します。

```
./appver.sh
```

スクリプトで問題となる不適合箇所が検出されなければ、次のようなレポートが画面に表示されます。

```
[danke@dvk-rhs testpark]$ ./appver.sh
appver 1.0 Intel(R) Quick Start Kit for Linux Release 1.0
Checking versions and dependencies for Basic Office Automation applications.
Please wait...................Done.
Success!
The Basic Office Automation packages are installed with correct versions.
```

スクリプトで不適合バージョンのアプリケーションが検出された場合は、不適合のアプリケーションを知らせるメッセージがレポートされるとともに、対策案が示されます。例えば、次のレポートでは、Real Player と Evolution アプリケーションについて不適合が検出された旨を示しています。

```
dkeskar@dvklinwin:~/proj> ./appver.sh
appver 1.0 Intel(R) Quick Start Kit for Linux Release 1.0
Checking versions and dependencies for Basic Office Automation applications.
Please wait.................Done.
*****************************************************
Note:
Please follow steps below for a complete Basic Office Automation system.
*****************************************************


----------------- Packages Missing -----------------
Install these currently missing packages.
In most cases, these packages may be part of the Linux distribution CD.

 + RealPlayer-10-0.1 (See http://www.real.com/linux/)
 + evolution-data-server-0.0.99-2.1
-----------------------------------------------------
```

詳細情報

インテル® Application Version Compliance (AVC) ツールの詳細については、http://www.intel.com/go/linux (英語) を参照してください。

ドキュメント

Linux 版 インテル® クイック・スタート・キットには、次のエンドユーザ向けドキュメントが添付されています。

- **製品ガイド** – 本書。このガイドでは、キットの各種コンポーネントの詳細情報を提供します。具体的には、サポートされているマザーボード、Linux OS ディストリビューション、デバイスドライバとそのインストール手順、スペシャル・サポート・キットについて説明します。また、このクイック・スタート・キットで検証されている Basic Office Automation スタックについても取り上げます。さらに、技術サポートを受けるための詳しい方法についても示します。
- **オンライン・ヘルプ** – 『Linux* 版 インテル® クイック・スタート・キット製品ガイド』(本書) のオンライン・ヘルプ・バージョン。このヘルプ・システムのルート・ファイルは、`intel_quick_start_kit_for_linux_product_guide.htm` というファイル名で、それぞれの言語ディレクトリ内の `online_help` ディレクトリに置かれています (7 ページの「キットの使い方」を参照)。オンライン・ヘルプは、次のいずれかの方法で起動できます。
  - ローカルな Web ブラウザを使用して、キットの CD から直接ルート・ファイルを開きます。
  - キットの CD から目的の言語ディレクトリのすべての内容をローカルなハードディスク・ドライブ上のいずれかの場所 (システムのルートフォルダを除く) にコピーして、オンライン・ヘルプをローカルシステムにインストールします。なお、CD からコピーを行う際は、ファイル階層を崩さないようにしてください。ハードディスク・ドライブにファイルシステムをコピーしたら、ローカルな Web ブラウザを使用してルート・ファイルを開くことで、オンライン・ヘルプを起動できます。
  - キットの CD をシステムにセットして、CD が自動的に実行されるのを待ちます。表示されたマップで目的の地域をクリックして、言語を選択します。新しく表示されたページの下部に示されるオンライン・ヘルプ・リンクを選択します。
- **クイック・リファレンス** – Linux 版 インテル® クイック・スタート・キット製品リリースのクイック・リファレンスとして用意された簡単なドキュメントです。
- **リリース・ノート** – 判明している問題点やバグ、次のリリースで予定されているアイテムの詳しいドキュメントです。判明している問題点とバグの他、Basic Office Automation アプリケーションの検証時に行った手順についても説明します。
- **販促用パンフレット** – Linux 版 インテル® クイック・スタート・キットのリリースの概要を紹介する販促資料です。このドキュメントには、技術サポートを受けたり、販促に関して問い合わせを行う上で必要な連絡先が記載されています。

技術サポート

Linux 版 インテル® クイック・スタート・キットを使用した基本的なシステム構築に関連する技術的な問題点 (このキットでこれ以外に提供されているデバイスドライバのサポートなど) については、http://www.intel.com/go/Linux/ (英語) を参照してください。

Novell Linux Desktop 9 に関連するオペレーティング システム固有の問題点については、http://www.novell.com/products/desktop/intel.html (英語) を参照してください。

Red Hat Desktop 3 Update 3 に関連するオペレーティング システム固有の問題点については、http://www.redhat.com/promo/intel/ (英語) を参照してください。

Red Flag Desktop Linux 4.1 に関連するオペレーティング システム固有の問題点については、http://www.redflag-linux.com/intel/co-branded/ (英語) を参照してください。

FAQ

本章では、よくある質問とそれに対する回答を示します。

- **Linux 版 インテル® クイック・スタート・キットのリリース CD を使用する前のシステム状態はどうしたらいいでしょうか。例えば、ハードウェアを取り付けてオペレーティング・システムをインストールし、正常に起動した状態にすべきですか。**

  すべてのハードウェアを取り付けて、OS をインストールして、システムを正常に起動しておきます。

- **CD に収録されている項目はどのような順序で使用したらいいですか。**

  オーディオ、グラフィックス、LAN の順番で、目的のドライバをインストールします。Linux 版 インテル® クイック・スタート・キットの使い方については、7 ページの「キットの使い方」を参照してください。キットに付属の個々のドライバのインストール方法については、13 ページの「ドライバのインストール」を参照してください。

- **CD にはどのようなデバイスドライバが収録されていますか。**

  CD には次のドライバが収録されています。

  - ドライバ: 865 AC97 Audio Driver for Red Hat Desktop 3 Upd 3
  - ドライバ: 915 Marvell LAN Driver for NLD9, Red Hat Desktop 3 Upd 3
  - ドライバ: 915 Audio Driver for Red Flag Desktop 4.1, NLD9, Red Hat Desktop 3 Upd 3
  - ドライバ: 915 Graphics Driver for NLD 9, Red Hat Desktop 3 Upd 3, Red Flag Desktop 4.1

- **どのディストリビューションがドライバのアップデートを必要とし、どのディストリビューションでドライバのアップデートは不要ですか。**

  どのオペレーティング・システム・ディストリビューションの、どのドライバがアップデート必要で、どのディストリビューションの、どのドライバのアップデート不要かについては、13 ページの表 4 に示されています。

- **ドライバのアップデートとバグ・フィックスに関する情報は、インターネットのどこに掲載されていますか。**

  http://www.intel.com/go/Linux (英語)を参照してください。